

一般社団法人 JA共済総合研究所  
専務理事

なが よし なお と  
永 吉 直 人



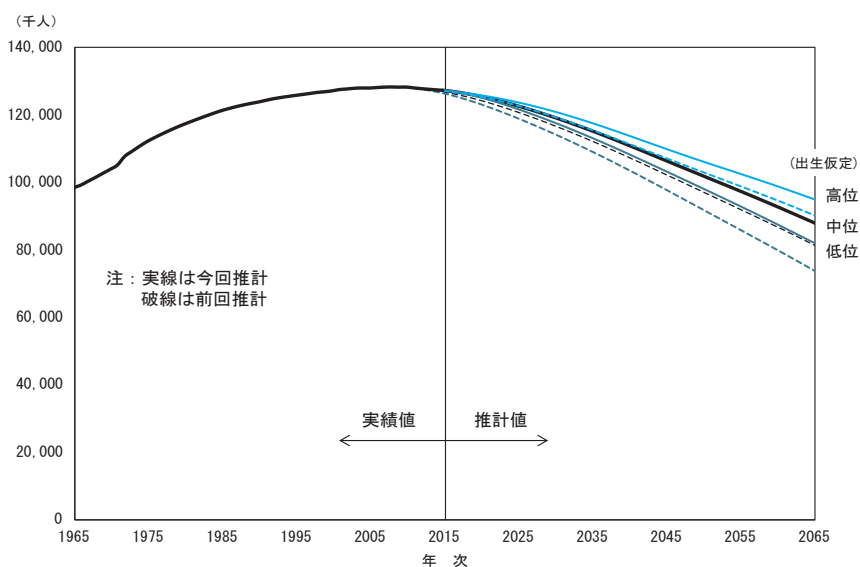
「平成27年国勢調査」によると2015年の日本の総人口は1億2,709万人であった。その内訳をみると、年少（0～14歳）人口は1,595万人、生産年齢（15～64歳）人口は7,728万人、老年（65歳以上）人口は3,387万人である<sup>(注)</sup>。年少人口は1980年代初めの2,700万人規模から、生産年齢人口は1995年の8,726万人から、それぞれ減少し続けている。

一方、昨年4月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口」によると、

日本の人口は長期の減少過程に入り、2065年には8,808万人になると推計されている（出生中位・死亡中位推計。以下同）。内訳をみると、年少人口は898万人、生産年齢人口は4,529万人となる。老年人口も2042年に3,935万人でピークを迎えたのち2065年には3,381万人になる。これを踏まえた老年人口割合は2015年の26.6%から、2036年で33.3%、2065年には38.4%、即ち2.6人に1人が老年人口となる。「超高齢社会」は老年人口割合が21%超とされていることから、超高齢社会は今後さらに進展すると見込まれる。

政府等が出生率引き上げに取り組んだとし

(図1) 総人口の推移－出生中位・高位・低位（死亡中位）推計－



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口－平成28（2016）～77（2065）年－平成29年推計」

(注) 2015年の年齢別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による。

でも、その効果が人口構成の変化に寄与するには時間的なラグが生じるため、前述の「日本の将来推計人口」の結果から大きく改善することは想定し難い。

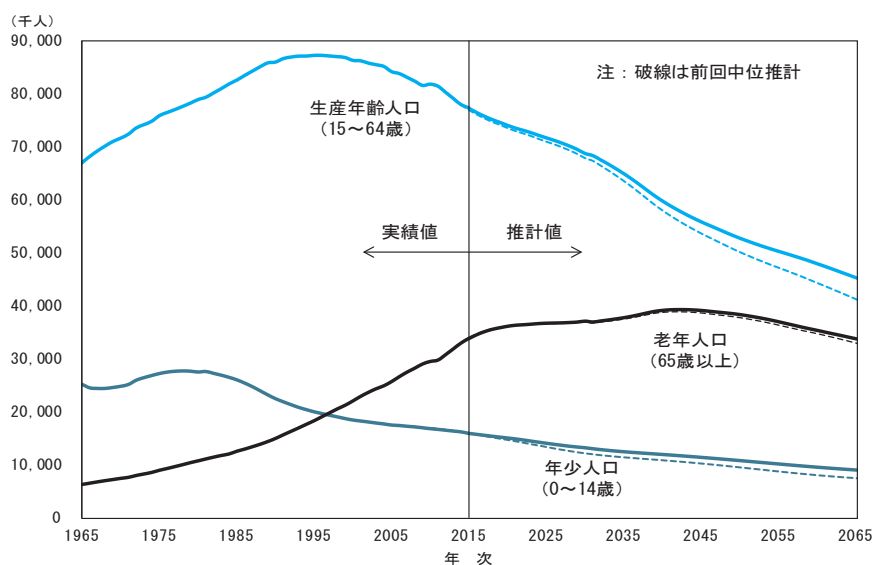
この推計結果は日本の将来について暗いイメージを与える。「人口減少」については、第2次世界大戦後の我が国の高度経済成長に対する人口増加の効果「人口ボーナス」と対比し、今後の人口減少と生産年齢人口減少とによる「人口オーナス」を想起させる。「少子高齢化」についても、生産年齢人口と老年人口との比率の悪化を連想させる。同じく「日本の将来推計人口」によれば、老年従属人口指数（生産年齢人口100に対する老年人口の比）は2015年の43.8（働き手2.3人で高齢者1人を扶養）から2065年の74.6（同1.3人で1人を扶養）になると推計されている。

このような2065年までの人口構成等の推移の中、活躍が期待されるのは老年に分類される高齢者と考えられる。この観点から、政府は多面的な検討・提案を行っている。安倍首相を議長とする未来投資会議では「健康寿命の延伸」を提案し、厚生労働省の社会保障中央協議会における2018年度に向けた医療介護報酬改定においても、健康寿命の延伸、医療と介護の連携および「地域包括ケア」の改善を検討している。経済産業省でも「健康経営優良法人認定制度」を推進している。文部科学省は「超高齢社会における生涯学習のあり方に関する検討会」において高齢者の生涯教育を検討し、国土交通省は「高齢者の移動手段の確保に関する検討会」において「高齢者が安心して移動できる環境の整備」を検討している。官産学連携での検討としては“健

幸社会”を実現する「スマートウェルネスコミュニティ協議会」におけるプロジェクト等がある。

政府を中心とした多面的な検討は奇貨とすべきであるが、重要なのは、高齢者が活躍できる機会をつくることである。「人口減少」「少子化」が不可避なのであれば、日本社会の活性化のためには、高齢者が「客

（図2）年齢3区分別人口の推移－出生中位（死亡中位）推計－



（出典）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口－平成28（2016）～77（2065）年－平成29年推計」

---

---

体」ではなく「主体」として活動することが重要となる。

60歳以上を対象とした内閣府「平成26年度高齢者の日常生活に関する意識調査」（回答総数3,893）によると、就労希望年齢について28.9%が「働けるうちはいつまでも」と回答するとともに、55.3%が70歳以上の就労を希望している。同じく60歳以上を対象とした内閣府「平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（回答総数1,999）によると、「あなたは、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行いたい、または参加したいと思いませんか」との質問に対し、掲げられているいずれかの活動に「参加したい」と思っているという回答は72.5%であった。そのうち、「健康・スポーツ」44.7%、「趣味」26.3%、「地域行事」19.1%、「生産・就業」は15.1%という回答があった（複数回答可）。調査結果から、高齢者の就労意欲および活動意欲が高いことが読み取れる。

高齢者の活動意欲の受け皿としては地域コミュニティが想定される。しかしながら、職場を離れた後、地域コミュニティの存在および活動内容を把握することは容易ではない。ここに、活動したい高齢者と活動機会とのミスマッチが生じている可能性がある。

地域コミュニティに関しては、民間企業より、地域に密着した非営利団体である協同組合に対する期待・信頼は大きい。その中でも、JAは、総合事業および組織活動を通じて、組合員とともに「地域の活性化」に取り

組むことができ、かつ、取り組まなければならない協同組合である。

JAグループにおける高齢者を主体とした地域活性化の事例として「上勝町農協（現JA東とくしま上勝支所）」で始まった「葉っぱビジネス」が有名である。里山の葉っぱや花を収穫し、料理の“つまもの”として出荷する葉っぱビジネスにより高齢者に仕事ができることで出番と役割ができ、高齢者が元気になり町の雰囲気も明るくなるとともに、老人ホームの利用者数が減り町営の老人ホームはなくなるという好循環が生まれた。

また、地域貢献としては、JAあつぎの女性部ボランティアグループ「ゆめみ隊」の活動があげられる。「ゆめみ隊」では、農業者、元JA職員、元教員、元保育士、元銀行員など様々なキャリアを有する60歳代、70歳代のJA女性部員が、同JAが実施する子育て支援ひろば「ゆめっこくらぶ」、「ひなた」の活動を支援している。加えて、地域のミニデイサービスや保育園、学童クラブに出向き、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象としたボランティア活動を行っている。そして、JAいわて花巻でも「わいわい子育てフリースペース」において、地域ボランティアグループ「ほのぼの」に所属する元保育士や元教員等がJAの子育て支援活動に参画している。

このように、地域に密着しているJAは、高齢者に活動の“場”を提供しうるとともに、地域特有かつ世代を超えた魅力的な活動を行う組織である。

地域における活動を行うにあたり、「人」とともに重要な要素である「土地」についても課題解決に向けた検討が進んでいる。近年、地域の活性化にあたり、所有者が不明であるため活用できない土地がネックとなるケースが見受けられ、昨年12月に発表された「所有者不明土地問題研究会最終報告」によると、所有者不明土地（不動産登記簿等の所有者台帳により、所有者が直ちに判明しない、又は判明しても所有者に連絡がつかない土地）は、2016年時点で約410万ha、2040年には約720万haになるものと推計されている。この所有者不明土地により、所有者探索のコスト、土地利用に関する機会損失および管理コスト等の発生が見込まれるが、同報告書では経済的損失を2016年で1,800億円／年程度と推計している。昨年12月29日付日本経済新聞朝刊において、法務省は、所有者不明土地への対応として相続登記の義務化および土地所有権の放棄の可否について検討し、早ければ2018年にも関係法規の改正を法制審議会（民法や刑法、商法といった法律の中でも最も重要な基本法などの見直しの方向性を審議する法務大臣の諮問機関）に諮問すると報道された。地域再生・地域活性化に対する法制面の整備であり肯定的に捉えたい。

平成27年版厚生労働白書によると、江戸時代後半の日本の人口は3,000万人程度と推計されている。この人口で、各藩は里山の活用等自領を活用しつつ特産物の育成に力を入れ藩の発展を図っていった。前述の推計によれば、2065年には総人口8,808万人、老年人口

割合38.4%になるが、江戸時代に負けないよう、地域が主体となり地域再生・地域活性化を図ることが求められる。

この取組みに資するため、JA共済総合研究所では、引き続き、地域再生・地域活性化の取組みについて情報発信を行っていききたい。

(参考文献)

- ・総務省統計局「平成27年国勢調査」2016. 2.
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口－平成28（2016）～77（2065）年－平成29年推計」2017. 9.
- ・内閣府「平成29年版高齢社会白書」2017. 6.
- ・所有者不明土地問題研究会「所有者不明土地問題研究会最終報告」2017.12.
- ・内閣府「平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査結果」2015.03.
- ・内閣府「平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果」2014.03.
- ・厚生労働省「平成27年版厚生労働白書」2015.10.
- ・福田いずみ「JAの子育て支援活動と自治体の情報ツールの活用」共済総研レポート No.146 2016. 8.